

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット コスモス)

事業所番号	2794400057		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア城東の湯グループホーム		
所在地	大阪市城東区東中浜4-2-7		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の自由を尊重するためにタイムスケジュールを作らず、入居者様の望むライフスタイルを支援しています。開設当初よりご入居されている方もおられ、ADLの低下はありますが、地域の活動にも積極的に参加していただいています。入居者様に楽しんで生活して頂ける様にさまざまなイベントを企画しスタッフも一緒に楽しんでいます。新しいスタッフも多いので、社内研修や、拠点内でのミーティングを実施しより良いケアを提供できる様にしています。ふれあい喫茶を開催する等地域に根付いた施設運営を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体のヒューマンライフケア(株)は、教育を基点に幅広い事業を展開する介護事業として介護保険制度の始まる前年の1999年にスタート、全国に195の事業所を有する。当事業所は、その内の一つで平成22年3月に設立した。この事業所の職員は、平均年齢が、ほぼ30歳と非常に若く、介護の仕事に情熱的に取り組んでいる。緻密な研修制度があり、入社時に基礎研修がある。そして、スキルアップの手段として、マイスター制度がある。段階を追って、シルバー・ゴールド・プラチナとあり、2か月に一度テストがあり、昇給するという。勉強が即、仕事に活かされる非常に効果的な制度である。カードゲームをしたり、口腔体操に早口言葉を取り入れるなど、認知症予防をしているせいか皆若々しい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果(コスモス)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・安心と満足の提供・信頼の確立・生き生きとした生活・地域社会と共にといいたちが大切にしている事を理念としている。事務所、玄関、各ユニットに掲示している。	地域に根ざした事業所独自の理念を作り出し、各ユニットのリビングルームや玄関、事務所等に掲示している。その理念を、日々ミーティングで確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加させて頂いている。ふれあい喫茶を開催し地域の方との交流を行っている。	地域に事業所のスペースを提供し、自治会と共に「ふれあい喫茶」を運用、介護相談に乗るなど、地域住民と積極的に交流、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスにてふれあい喫茶を開催し地域の方との交流を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れ、業務の改善、向上につながる様取り組んでいる。写真で行事の報告をし、次月からの予定、ひやりはつとを報告している。	偶数月の第3金曜日、時間を18時30分と固定して開催している。そこでは、食事の味付けについて、運営推進会議のあり方について等、様々な意見が出され、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂き、情報提供をして頂いている。	地域包括支援センター職員、区役所担当職員とは、都度連絡を取りながら協力関係を築いている。現在、区役所から当事業所を、非常災害時の福祉避難所としての依頼を受け、検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員間で話し合いを持っている。玄関の開錠に関しては家族様からの反対もある。各ユニットへの行き来は自由である。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える精神的苦痛を理解し、拘束のないケアの実践に努めている。玄関出入口は安全のため施錠しているが、内部ユニット間は自由に行き来できるし、テラスも開放されていて、閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中でどのような事が虐待にあたるのか、職員内で共有し、話し合っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	後見人制度については家族様対応にて行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を取り入居者様や家族様の不安を取り除く様に努めている。入居されある程度慣れてから次の方に入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や助言を頂いている。家族様と積極的にコミュニケーションを取る事を心掛けている。あまり面会に来られない方にはお手紙や、お電話で普段の様子をお伝えしている。	運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等とは来訪時に、意見や要望を聞き出すようにしている。運営推進会議の記録を利用者家族全員に送付しているが、未参加の利用者意見もアンケート形式で取り入れるようにとの提案があり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい、環境作り。連絡ノートを活用し、意見や提案を確認し改善する様取り組んでいる。又、個別に面談を行っている。	事業所の運営方法について、職員からは、平素の業務の中から、また毎月の職員会議の中から職員間の悩み事や介護相談、シフトの事など意見要望を聞き出し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を職員が目にする場所に置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部での研修をお知らせし、積極的に参加できる様声掛けをしている。又、新入社員については、日報を記入してもらい、不安に思う事等を確認している。OJT、新卒に関しては1年間スケジュールを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での会議にて情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と接し利用者から要望等が聞かれない場合は家族様から話を聞く様にして、利用者の気持ちを受け止めていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族様の思いの違いやこれまでの関係を理解し、受け止められるよう利用者だけではなく家族とも信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要求事項に応えられる能力をホームが有しているのかの確認を行い、他サービス利用も含めて検討し対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般などできる事は職員と共に生活を送って頂けるようにしている。その人に合わせたケアを行っている。ご本人ができる事を探し、感謝の意を忘れない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疑問や要望があれば気兼ねなくおっしゃって頂ける関係作りに努め、家族様にもできる範囲での協力をお願いしている。家族様より協力の申し出もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されたことで今までの関係が途切れる事のないよう出来る限りの支援を行っている。	利用者本人が今まで関わってきた地域社会との関係を継続して行くために、馴染みの店へ買い物に出掛けたり、美容院や法事への参加など、家族の協力を得ながら利用者一人ひとりに対応した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く暮らせる様、日々の生活のなかで協働しあえる様支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、出来る限り支援を行っていく。又、退去後も関係が途切れない様手紙等のツールを使用し積極的にコミュニケーションをはかる様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常時希望や意向を聞けるようにしている。ご本人が何を望まれているか分からない時は家族様にも話を聞いている。今後の事についても何人かの方と話をしている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、日々の関わりの中で把握に努めている。困難な場合は日々の活動の中から興味関心を見つけ出したり、家族や関係者の中から聞き出しケアプランに活かすようにしている。利用者本人と、ターミナルケアについての話をすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話やご家族、ケアマネージャーからの聞き取り等で得た情報を活かし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する能力を把握し、日々の申し送りの中で職員間で情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット合同で申し送りを行い 利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。定期的にカンファレンスを行い、利用者だけでなく家族の思いも反映できるよう取り組んでいる。	介護計画の期間は一応長期を6ヶ月、短期を3ヶ月としているが、日々の支援経過や観察記録等により変化が起きた時には、その都度、臨機応変に介護計画の見直しを行うようにしている。従って、利用者によっては、2か月ごとに見直している人もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過記録を残し状況を把握している。日々の記録を元に情報の共有化を図り介護計画の見直しに活かしている。モニタリングを毎日全スタッフが記入している。通院の際などに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズについては出来る範囲で対応しているが問題点も多い。臨機応変に対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを利用し定期的に三味線の演奏会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様のニーズに合わせ、かかりつけ医の往診を受けられている。又、訪問マッサージや、歯科往診もある。かかりつけ医と密に連絡を取り合っている。又、入居前に通院していた病院を引き続き利用される方もいる。	かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。受診や通院支援については、家族が同行される場合も職員も同行し、利用者の様子を報告したり話を聞くなど、医療機関との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院に24時間相談できる関係が築かれている。往診日とは違う日でも訪問して頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、定期的に病院に訪問し利用者との関わりが切れないようにしている。病院関係者や家族様との情報を共有する事で退院時の受け入れがスムーズに行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応及び看取りケアに関する指針を明確にし、その上で事業所として出来ることを説明し、支援している。看取りを行った事もある。	事業所独自の重度化対応・終末期ケア対応指針を作成して契約時に説明、意思確認書を交わし基本的な考え方を共有している。また、重度化し終末期を迎えた時には、再度確認することになっている。過去2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、対応についてはすぐに対応できる様、目のつく所にマニュアルを掲示し、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回施行している。夜間を想定した訓練を行っている。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に年に2回夜間対応も含めて行っている。災害に備えた備蓄備品も整えている。しかし、夜間を想定した避難訓練が不足しているし、地域の方々と共に行う避難協力体制も、少し不十分である。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを、自治会を通じて近隣の方をお願いするなど、いざという時に混乱しないように、役割分担と夜間を想定した実訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を敬い、日々の声掛けの仕方等、スタッフ間で話し合い声掛けを行っている。	接遇についての研修会やマナー講習会などを、定期的に行っている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも、鍵のかかる事務室のキャビネットに厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が答えやすい様な問いかけをしたり、筆談にてコミュニケーションをはかるなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにあわせ、タイムスケジュールを作らず、起床、入床を自由に行って頂き、それに合わせ食事を提供する等無理強いせず、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、その方が選ぶ物に更衣していただき、顔そりや髭剃り爪切り等声掛けや介助を行っている。定期的に訪問美容にきて来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月何かしらのイベントを企画しメニュー決めや買物を職員と共に行っている。季節ごとの行事を大切に季節感のある料理を提供している。誕生日にはご本人の希望するものを提供する。定期的に外食を行っている。	食材会社の食材を、調理、盛り付け、後片づけを利用者と共に和やかな雰囲気の中で行っている。行事食を時には、利用者の好みを聞きながら職員と共に購入に行き、作っている。誕生日にケーキを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を確認している。個人ごとに体重測定を週1回月1回で行っている。(多い方は月2回) 夕方の申し送りにて一日の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後口腔ケアを行っている。定期的に歯科往診を受けられている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、その方にあった誘導を行っている。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。 夜間は2時間ごとに巡回して、おむつ交換やパット交換など、排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、下剤をなるべく使用しないようおやつ等(ヨーグルトやプルーン)にも気を付けている。体操の声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を定めず、無理強いしない様声掛けしている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等、楽しみながら入浴できる様支援している。	基本的には2日に一度ではあるが、毎日沸かして、20時頃までは何時でも入浴可能である。 毎日入浴を楽しんでいる利用者もいる。 利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は特に決めておらず、生活習慣や状況に応じ気持ちよく睡眠できるように支援している。夜間スタッフや他利用者との団らんを楽しみにされている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者様にあつた服薬介助を実施し、状態の変化に留意している。チェック表を利用し服薬ミスがない様に複数のスタッフで確認しながら配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	百人一首、唱歌等、皆様で楽しむ物もあれば、ドリルや塗り絵等それぞれが自由に楽しめる様支援している。お手伝い等、役割を分担して協働できる様声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーや薬局に買い物に行かれる。外出拒否の方もおられる為個人差はあるが、希望に添つて外出の機会を作っている。	利用者のその日の希望に添つて、事業所周辺や近くの公園を散歩したり、買い物に出掛けたりしている。時には外食に出掛けたり、馴染みの美容室へ出掛けたりもする。又、USJへ出かけて、土産物屋で半日を楽しく過ごした事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。ご利用者の希望にそって、スーパーで買い物や行事に参加される際、自由に使って頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にかけられるよう支援している。携帯電話を使用している方には操作時介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間が作れるように 季節ごとに模様替えを利用者と共に行っている。季節を感じて頂ける様生花を飾っている。人形やマスコットを置くことによって、癒しの空間作りを行っている。	明るいきりびんぐルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったり、又、ゲームをしている利用者もいる。壁には利用者と職員で作った季節の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の施錠をしていないので思い思いの場所で過ごして頂いている。障害に応じソファなどを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続して頂ける 様なるべくご自宅で使っていた 家具を持ち込んで頂いている。宿泊できる部屋は用意していないが布団は貸し出しできる。	それぞれの居室には、ベッドを含めて利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく、居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のペースを大事にして過ごせる様 支援している。		